

第3学年 ホームルーム活動（人権）学習指導案

1 主 題 就職差別について

2 主題設定の理由（省略）

3 ね ら い

「就職差別につながるとされる14項目」の制定された背景を通して、公正な選考の大切さを理解させるとともに、不合理な差別に立ち向かっていこうとする態度を養う。

4 指 導 計 画

（1）これまでの学習

同和問題（同対審答申） ······ 1時間

多様な性のあり方 ······ 1時間

（2）本時の学習

就職差別について ······ 1時間

（3）これから学習

災害時における人権問題（講演会） ······ 1時間

アイヌの人々 ······ 1時間

1年間の振り返り ······ 1時間

5 本 時 の 学 習

（1）目 標

① 「就職差別につながるとされる 14 項目」を理解させ、公正な選考に向けて差別を見抜く力を養う。

② 「就職差別につながるとされる 14 項目」は、自分でなく他者の人権を守ることにもつながることに気付かせる。

③ 就職差別を解消するために、行動しようとする意欲を高める。

（2）普遍的な学習のテーマ ······ 基本人権の尊重、法の下の平等、個人の尊厳 個別人権課題名 ······ 同和問題

(3) 展 開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	○「就職差別につながるとされる 14 項目」の事前アンケートを確認し、本時の目標を理解する。	○アンケート結果から「就職差別につながるとされる 14 項目」の認知度を示し、本時の方向付けをする。	
展開 (40 分)	○グループで「就職差別につながるとされる 14 項目」の内容について知り、公正な選考の重要性について理解する。 ○グループで「就職差別につながるとされる 14 項目」に抵触する質問を見抜き、理由を考える。 ○ロールプレイを通して、面接時、差別選考に直面した場合、どのように対応したらよいか考える。	○「就職差別につながるとされる 14 項目」が作成された背景を伝える。 ○各班でどの質問が就職差別につながるのかを考えさせる。 ○自信をもって面接に臨み、能力・適正に関係のない質問には適切な対応ができるようにさせる。	○「就職差別につながる 14 項目」について知り、公正な選考に向けて差別を見抜くことができたか。 (技能的側面) ○自分だけでなく、他者の人権を守ることにつながることを理解することができたか。 (知識的側面)
まとめ (5分)	○本時のまとめを聞き、就職差別を解消するためにどのように行動すべきかをシートに書く。	○本時の内容を振り返らせ、差別解消に向けて行動することの大切さを伝える。	○就職差別を解消するために行動しようとする意欲が高まったか。 (価値的・態度的側面)